



じゅうど しんたいしょう じゅうど ちてきしょう ちようふく しょう いどう  
 重度の身体障がいと重度の知的障がい重複している障がいです。移動や  
 しょくじ にゅうよく はい ねがえ じぶんひとり こんなん じたく  
 食事、入浴、排せつ、寝返りなどを自分一人ですることが困難なため、自宅  
 ふくし う いりよう ふくし ていきよう せんもんしせつ にゅうしょ  
 で福祉サービスを受けたり、医療や福祉サービスを提供する専門施設に入所  
 したりしています。また、重症心身障がいの中でも、特に重度の状態を「超  
 じゅうしょうしんしんしょう こきゅう じんこう こきゅう き つ  
 重症心身障がい」といいます。呼吸がうまくできないため人工呼吸器を付け  
 たり、くち からうまく たもの の こ はな い くだ とお えいようせつ  
 たり、口からうまく食べ物を飲み込めないため鼻から胃に管を通して栄養摂  
 しゅ  
 取したりしています。

### しょう れい 障がいの例

しせい じりき おあ こんなん ね  
 ○姿勢…自力では起き上がることが困難なため、ほとんど寝たままです。

こうしゅく ちようきかん じぶん いし てあし うご  
 ○拘縮…まひなどにより、長期間、自分の意思で手足を動かすことが  
 できなくなると、関節の可動範囲が狭くなります。

きんきんちよう きよくど きんにく きんちよう おも てあし うご  
 ○筋緊張…極度に筋肉が緊張し、思うように手足を動かすことができ  
 ません。

じゅうしょうしんしんしょう じ やく ひと  
 ○てんかん…重症心身障がい児の約60～70%の人に、てんかんが  
 あります。てんかんは、のう しんけい いちぶ かっぱつ かつどう  
 脳の神経の一部が活発に活動しすぎるため  
 お びようき  
 に起きる病気です。

ご くち と こ たもの すいぶん しょくどう おく  
 ○誤えん…口から取り込んだ食べ物や水分をうまく食道に送ることが  
 できず、あやま きかん はい けつか はいえん  
 できず、誤って気管に入ってしまうやすいです。その結果、肺炎や  
 きかんしえん  
 気管支炎になりやすいです。

きゅういん きかんせつかい ひと  
 ○たんの吸引…気管切開をしている人や  
 じりき だ ひと  
 自力でたんを出すことができない人は、  
 かいじょしゃ きゅういん ひつよう  
 介助者などがたんの吸引をする必要が  
 あります。



## こんなサポートがうれしい！

**介助者と一緒に、優しくコミュニケーションをとってみてください。**

重い障がいがあっても、内に力を秘めていて、周りの人に勇気や希望、癒しを与えています。言葉で伝えることは困難ですが、声や身振り、目くばせなど、いつも介助している人であれば分かる手段で気持ちを表現することができます。優しくコミュニケーションをとってください。

**外出するとき、ハサミやミキサーの貸出しがあると助かります。**

かむ力や飲み込む力が弱く通常の食事が食べられない場合は、細かく刻んだりトロミを付けたりして食べています。外出するとき、レストランなどで、介助用の取り皿やスプーンに加えて、ハサミやミキサーも貸出してもらおうと助かります。

**移動するとき、困っているように見えたら、声を掛けてください。**

移動するときは、介助者に抱えてもらったり、車いすなどを使用します。本人の体が大きい場合や医療機器を持ち運ぶ必要がある場合、介助者の負担はより大きくなります。少しの距離、段差であっても、移動に人手が必要そうに見えたら、「何かお手伝いすることはありますか」と声を掛けてみてください。

**移動するときは、広いスペースが必要です。**

車いすやバギー（リクライニングできる車いす）、ストレッチャー（寝かせたまままで移動できる車輪付きのベッド）で移動するので、駐車場や施設内の通路、エレベーターなどでは広いスペースが必要です。近くを通るときやエレベーターに同乗するときは、配慮してください。

**たとえば、こんなことがあります。**

障がいのある人の中には、学校や施設で「ムーブメント教育（療育）」を受けている人もいます。これは、パラバルーン（直径3mから8mの円形の軽い布）やスカーフなどの遊具を使って運動したり、周りの人たちとのかかわりを楽しんだりする学習です。他の児童や介助者と一緒に行動することで、自主性、社会性などを育てています。重い障がいがあっても、自分の意思で行動し、他者とコミュニケーションをとることができることを知ってください。

